

議会基本条例制定をめざす議会改革特別委員会 (第3回出前委員会)

日時 平成20(2008)年5月17日(土) 午後7時から9時5分まで

会場 関戸公民館 ヴィータホール

参加者 市民77名

委員13名：藤原議長、安藤委員長、岩永副委員長、遠藤委員、萩原委員、
小林(憲)委員、橋本委員、白田委員、折戸委員、住田委員、向井
委員、今井委員、菊池委員

委員外議員4名：篠塚議員、加藤議員、武内議員、辻議員

【会場からの主な意見】

○男性(立川市)

議員がこういう会をやるのは画期的だ。地元立川市議会は何度も傍聴している。報酬についてだが、月額50万6千円と出ているが、市民が問題にするのは全体(年収)。17年度の実績だと年間900万となっているが、これを12ヶ月で割り返すと月額80万くらいになる。この数字で議論しないと市民の意見や怒りは出てこないのではないか。年額で数字は出せるのか。

○女性(和田)

報酬についてアンケートでは半数が高いと言っているが、どのように捉えているか。他市では報酬を下げたところもあるが、どう考えるのか。

●安藤委員長

まず、報酬の実態を説明する。報酬は議員のお手盛りで決めるのではなく、報酬等審議会というところで決定している。ホームページでボーナスを含めて全て公表している。政務調査費も1円から領収書を公開している。

●折戸委員

私の報酬の実態を報告する。2008年4月の報酬50万6千円のうち差し引き分が約10万5千円あり、手取りは約40万円。この後19年度の実態を報告。

●安藤委員長

議員報酬を議会日数で割り返すと1日いくらといわれるが、議員は議会以外にも様々な活動を行っている。例えば、今日のような特別委員会や各種審議会など。相撲取りに例えれば、本場以外は何もしていないかといえそうではなく、場所に備えて稽古をしている。議員は議会外の日にも議会に備えて調査活動などを行っている。企業経営者の視点で考えて、高い報酬でも存分に働いてみせますという人をこそ雇いたいと思わないか。

○男性(関戸)

今の子どもたちの教育に関して聞きたい。教育関係者から答弁をもらいたい。人を育てるということを大切に教育を行ってほしいのだが・・・

●萩原委員

文教常任委員長ということで答えたい。自分の子ども時代は、近所の人からも叱られた。現代ではそういう環境がなくなっている。委員会でも様々な観点から議論していきたい。

○男性(関戸)

昨年、多摩川が増水した。関戸地域では自主的に避難した人もいた。防災課に問い合わせたら電話の向こう側で笑い声が聞こえた。議会には現場の役人のこういう実態についてのチェック機能もあるのではないか。防災体制について議会としてどのようなチェックをしているのか。

●安藤委員長

議会でも防災関係の質問はたびたび取り上げていると記憶している。市民の生命財産を守ることは重要であり、議会としてもしっかり取り組みたい。

○男性(地域不明)

報酬について戻ってしまうが、昔は議員は土地の名士、富裕者になったものだが、現代ではサラリーマン議員も致し方ないと思う。しかし、福島県矢祭町の日当制の例もある。サラリーマン的な議員が悪いとは思わないが、議会は日当制というわけにはいかないのか。

また、今回 1 名の議員が欠席しているが、その議員の賛否について議会だよりに掲載されていない。名前も載っていないのはどういうことか。本人の賛否が不明ならば「不明」と載せるべきであり、せめて名前は掲載してほしい。

●菊池委員

議員の日当制について。議員のチェック機能を維持していくためには日当制では難しい。政務調査費も含めて充実しないと市民の期待に応えられないのでは。サラリーマン議員として言わせてもらえば、限られた歳費の中で、どう議員活動を高めていけるか、やはり一定の保障が必要ではないかと考えている。

●安藤委員長

流れは二つある。ひとつはボランティアで多数。もうひとつは少数精鋭で議員のプロ化の方向。議員の使命は行政と対等に渡り合ってチェックしていくことだが、調査機能を高めなければ行政と勝負にならない。ボランティア議員では行政と対峙できない。

欠席議員の氏名を議会だよりに載せる件については今後検討する。

○男性(関戸)

議員の人数を 26 名から 20 名にということだが、政務調査費が他市の半分程度ということでまっとうな話ができるのだろうか。

市庁舎移転について多摩センターに移転という方向が出ているようだが、どのように考えているのか。

●安藤委員長

議員の人数については、税金の節約のために人数を減らすとかいうことではなく、議会機能を果たすための合理的な人数はどの程度かという発想で決めていこうと考える。その中では増も減もあるだろうと思うが、議運で議論していく。

市庁舎についてはまだ何も決まっていないのが現実。現在市長が設置した懇談会で議論が進んでいると認識している。

○女性(乞田)

期末手当について。民間企業では企業業績に応じて支給されるものであり、違和感がある。年額報酬を 12 ヶ月で割り返して月々の報酬とした方がよいのではないか。報酬等審議会にまかせるのではなく、議会として議論が必要ではないのか。

一般質問について、専門用語が飛び交ってわかりにくい面もある。また、予算委員会や決算委員会の質問に注力できるような方向をめざしてはどうか。

●安藤委員長

報酬は議員活動を保障するもの。資産のない人も立候補できるようにしなければならない。報酬についてはいわゆる議員のお手盛りにならないようにという意識が強いが、議会でも検討したい。

●橋本委員

一般質問は、幅広く行政全般について聞ける場である。質問、質疑は性格が違いどちらも重要と認識している。専門用語についてはわかりやすくしていく努力をしていく。

●菊池委員

一般質問にかける労力が大変ということのようだが、市民を代表して市政をチェックする、また政策提案をしていく場であり、議員の権利として重要である。さらに予算決算委員会で充実をはかっていくことが大切。

●安藤委員長

一般質問に関しては、つい短時間で成果をあげたいがためにわかりにくくなってしまうこともあるが、改善したい。

○女性(和田)

傍聴について。議場では議員の笑い声、野次、居眠りは野放しなのに、市民に対しては議長の厳しい注意がある。傍聴席での発言は許されないなど、傍聴市民と議員の対等性がないと感じている。傍聴するたびに不愉快だ。(拍手あり)

○男性(和田)

アンケートの報告で、市民が知らないのが悪いみたいな言い方だが、議員の知らせる活動が不十分。報酬については個人の活動費を発表してほしいのではない。不勉強な一般質問が問題。

議員は限られたグループを代表する活動ではなく、多摩市全体に向けての活動をしてほしい。

テーマを「こんな議会にしたい」ではなく、「こんな議員になりたい」と変えてはどうか。(拍手あり)

○男性(立川市)

立川市では議運の途中で退出させられた。非公開はやめてほしい。ただ退出させられるのでは納得できない。

○男性(地域不明)

専門用語などわかりにくい言葉の解説をボードに書いて傍聴席に示してはどうか。傍聴席をもう少し高くして議員席が目の下に見えるように議場のつくりかたを工夫してほしい。現状では議員席のほうが高くなっているように見える。

●安藤委員長

議員の態度についてはしっかり反省しなければならない。自分も長時間の議会の中でふっと気が抜けてしまう瞬間もあるがしっかり受け止めたい。

多摩市は議運も代表者会議も個人情報にかかわるもの以外はすべて公開している。市民の発言の機会については今後検討していく。現時点では傍聴は議論に影響を与えるものではないと整理している。

アンケート結果については愕然とする部分もある。私たちは市民と一緒に動いているつもりではあるのだが・・・

何を言っているのかわからないという質問についての指摘は、わかるものにするよう心がけたい。

質問の中の専門用語などの解説についてはご提案も参考に工夫したい。

議場の床はフラットで、議長席が若干高くなっているのが現状だと思う。いすの高さは測ってみないとわからない。

●菊池委員

フラットな床の議場は多摩市だけ。実は作った当時は将来議会棟をつくった際には今の議場を事務室に転用することも考えていたのでフラットにした。結果的には

よかったと思っている。

○男性(関戸)

多摩市に22年住んでいるが、議会傍聴の経験はない。

今年の予算審議では修正もあり、議会も頑張っていたと思うが、執行部側との緊張関係がなければ政策的な発展はないと思う。

自治体の市場化が進むが、多摩市の指定管理者導入の方向は。

議会事務局の役割を議会自体はどう考えているのか。

○男性(和田)

議会に期待されるのは行政のチェック機能だと考えるが、二小と竜小の統廃合に伴う道路整備や建物整備について不満をもっている。通学路の整備はまったく手がつけられていないようだが、来年4月から竜小が二小に移ることはもっと前から決まっていたのにどうしてチェックできないのか。

●菊池委員

指定管理者については自治体行政の外部化が進んでいる。指定管理者条例については一部反対も含めて成立したが、議会としても注文をつけた。

●橋本委員

議会事務局についてはその人数も含めて今まであまり議論にならなかったが、今回改革を進める中で事務局機能についても議論をすすめている。現状は「議会事務局を置く」としか規定されていない。経験豊富なベテラン職員の重要性や専門性をどう生かすのかなど議員側からもあり方について要望していこうと考えている。検討し充実したい。

●安藤委員長

条例作成時などには議会事務局のバックアップが不可欠である。

●萩原委員

竜小からの通学路については、市はバス通学を検討していると聞いている。

○男性(清瀬市議会議員)

議会機能の強化に関心があり参加した。議員からするとこういう会を開くというのは勇気があると思う。ぜひ今後は定例議会後に四グループくらいに分かれて議会報告会を開催してほしい。選挙が終わってしまうと議員の顔が見えないという現状を変えるためにも取り組んでほしい。

また議会をチェックする機能をどうするのかという観点から、市民による「議会モニター」や「議会オンブズマン制度」などを提案したい。そこで出された市民の声を議会報に掲載するなどはいかがか。

議員報酬については報酬等審議会を隠れ蓑にするのではなく、やはり議員自らが決めるべきと思う。

議会改革はとどのつまり、選挙のあり方にまで踏み込んだ改革が必要。今のようにな名前だけを連呼する選挙にせず、選挙期間中の一日はマイクを切って、市内の公共施設で昔懐かしい立会演説会を復活させてはどうか。政策をぶつけ合う選挙にしていこう。

●安藤委員長

議会活動をきちんとしなければ必ず落選するとなっていないことが実は問題だと思っている。

○女性(関戸)

議会に関心がある市民は多いのに自分が選んだ議員の活動を知らないというのは残念だ。傍聴を促す手立てはないのか。昼間だけでなく、夜間、休日開催など工夫を。

出前委員会はよい取組だと思う。今後は専門分野ごとの出前議会をやると議論が集約されるのではないかと思うがどうか。

○男性(関戸)

現行の市議会だよりについての8ページ構成とレイアウト、年4回の発行回数についてはもっと工夫が必要。誰が作成していて、今後どのような改善策を考えているのか。

●安藤委員長

議員の活動が見えないことが報酬の批判にもつながっている。オンブズマン制度やモニター制度は検討課題であり、この声を議会だよりに載せるのはよい提案だと思う。

議会活動力と選挙の当選力がかけ離れている現状をどうするかだ。

傍聴のチャンネル(機会)を増やす努力をしたい。

出前議会を専門分野ごとに開催するというのは検討したい。

議会だよりについては、ずっと墨一色だったが、今回からようやく二色刷りになった。デザインに関してはこれからだが、現在は議員が分担して記事を書くようになって少しずつ内容は変わってきている。市民のアイデアをいただきながらよりよいものにしていきたい。

●橋本委員

市民意見聴取の方法についてはすでに検討している。(議長へのはがきを工夫するなど)

以上